

西南風

プロフェッショナル

西南小の流儀

令和6年6月3日
第9号
文責 田中 宏和



自分で考えて学校に貢献

結成から一ヶ月が経過したセイナン・パワー・クラブことSPCの活動は、ずいぶん本質的なものになってきていました。結成当初は、朝の清掃活動への参加者が多く、校長・教頭が指示を出しながら、大勢での作業が続きました。しかし、校長・教頭も毎朝作業でさけるわけではなく、子どもたちの自主性に任せる部分が多くなってきました。そうしているうちに、約一〇〇名ほどのSPC会員の中で、日常的に活動しているのは一〇名ほどになっていきました。根気強く活動を続ける会員たちは、指示はなくとも自分たちで清掃箇所を見つけ黙々と作業するという、まさにボランティアを体現していました。

そして、ついに十七回分ある記録用紙が埋まってしまった会員が現れました。
六の一の緒方勇斗さん(右)と松本果穂さん(左)の二人です。彼らは、毎日活動していたのです。
○ポーン：あなたにとってボランティアとは？
「誰かのために自分ができること」(勇斗さん)
「人のために役立つなら何でもやりたい」(果穂さん)



好きでやっているから

本校の図書室に入った方はお気づきかもしれません。入り口前の掲示板、本棚上の壁面、そして天井。季節感あふれる色とりどりの掲示物が、利用者の目を楽しませてくれています。

この掲示物は、実は保護者のボランティアで行われています。その保護者とは、荒川さんと中野さんのお二人です。この活動は、少なくとも三年以上の長きにわたって図書室の環境を支えています。このお二人のすごさは、一つ一つの掲示物の出来映えを見れば分かります。モチーフ、色合いや形の美しさ、仕上げの丁寧さ、まさに職人芸です。また、季節感を大事にして、



いるというお二人は、季節によって掲示物を貼り替えています。さらには、本校だけでなく合志南小でも、同様の活動をされているそうです。合志南小と西南小の合わせて一六〇〇名の児童は、このお二人によって豊かな感性が育まれているのです。
○ポーン：あなたにとって図書館掲示とは？
「好きだからやっていることです」

地域のパトロールアイドル

毎朝遠くから聞こえてくる「オハヨイ」の声。声の方を見ると、その独特のフォルムが近づいて来ます。彼のアフロヘアを見れば子どもたちは弾けるような笑顔で挨拶を返し、背中の文字を見ては話に花が咲きます。
彼の名は大久保稔さん。本校三年生に娘さんが在籍する保護者です。毎朝「オジ年生」として登校班を笑顔にしています。きっかけは、登校班の子どもたちが下を向いて登校する様子を見たことでした。何とか元気づきたいと黄色帽を被って見送ることから始めました。いつしか校区を走り回り、アフロヘアになり、看板を背負うようになり、子どもたちに「オジ年生」と呼ばれるようになりました。そう呼ばれるようになった時には、すでに彼は子どもたちのアイドルであり、そして、その存在自体が児童たちの安心となりました。彼と会うのが楽しみで、早起きできるようになった子どももいます。



誰が頼んだわけでもなく、子どもを守り元気づける役割を自らに課し、毎朝変わらぬ元気な姿で走る「オジ年生」は、今日も西南小学校区のどこにでも神出鬼没で現れては、地域を生き生きとさせるのでした。
○ポーン：あなたにとって「オジ年生」とは？
「私の使命であり、人生の彩りです。これからいっきつも本気で元気な『オジ年生』の生き様を見せていきたいです！」